

# 公安委員会定例会議(第8回)の開催状況

第1 日 時 令和6年3月27日(水)

午後2時02分 ～ 午後4時28分

第2 出席者 五葉委員長、佐伯委員、小野委員

本部長、総務室長、警務部長、首席監察官、生活安全部長  
刑事部長、交通部長、警備部長、警察学校長、情報通信部長  
総務課長

第3 議事の概要

## 1 小野委員説示

本日は、物流・運送業界におけるいわゆる「2024年問題」についてお話しします。2018年に働き方改革の一環として労働基準法が改正され、時間外労働の上限が法律で規定されました。本年4月1日からは、建設・運輸・医療について例外的に認められていた時間外労働の上限規制の猶予が終了します。それに伴い、特に運輸業では、ドライバーに対する労働時間の規制が強化され、長距離輸送に大きな影響が生じることが予想されます。

まず、深刻な課題としてドライバーの収入減少が挙げられます。ドライバーは走行距離に応じて運行手当が支払われるため、労働時間の減少は賃金の低下につながり、その結果、トラック、バスのドライバーは、他の業種に比べて賃金が低くなり、離職率の上昇につながる可能性があります。

次に、ドライバー不足や時間外労働の上限が下がることによって、年間の稼働時間が減少し、輸送できる貨物量も減少します。これが物流危機を引き起こし、宅配便などの配達に支障を来すおそれがあります。また、若年者の雇用促進等のため、平成29年、普通自動車、中型自動車、大型自動車に加えて準中型自動車免許が新設されたものの、依然ドライバーの有効求人倍率は非常に高い状況が続いています。

こうした問題に対処するためには、現状の構造を改革するとともにドライバーの待遇を改善する必要があります。具体的には運賃の見直しや再配達の有料化、ワークライフバランスのさらなる検討、女性あるいは幅広い年代を採用するといった様々な施策のほか、自動運転技術の開発、新たなトラック輸送手段の導入、物流DX、鉄道や船を利用するモーダルシフトの推進などの技術革新も重要な解決策の一つです。物流業界全体で努力し、労働者や企業、政府などが連携して取り組むことが重要です。

このように日本においては、あらゆる施策を通じて自動車運転業務に関する問題を解決し、持続可能な物流システムの構築を目指す必要があります。県警察の皆さんも「2024年問題」を正しく理解し、日々の警察業務に生かしてほしいと思います。

## 2 決裁事項

### (1) 公安委員会定例会議の会議録

総務室から、令和6年第7回公安委員会定例会議の会議録について伺

いがあり了承した。

- (2) 警察署協議会委員の委嘱及び委嘱状の交付  
総務室から、警察署協議会委員の委嘱及び委嘱状の交付について伺いがあり了承した。
- (3) 公安委員会宛て苦情の受理  
総務室から、公安委員会宛て苦情の受理について伺いがあり了承した。
- (4) 公安委員会宛て苦情申出書に対する回答  
総務室から、公安委員会宛て苦情申出書に対する回答について伺いがあり了承した。
- (5) 審査請求の申立て  
警務部から、審査請求の申立てについて伺いがあり了承した。
- (6) 社交飲食店に係る不利益処分に伴う聴聞の実施結果  
生活安全部から、社交飲食店に係る不利益処分に伴う聴聞の実施結果について伺いがあり了承した。
- (7) 警察職員等の援助要求  
警備部から、警察職員等の援助要求について伺いがあり了承した。
- (8) 運転免許の行政処分に係る意見の聴取・聴聞  
交通部から、運転免許の行政処分に係る意見の聴取及び聴聞結果について報告があり、審議の結果、12件の行政処分の決定について伺いがあり了承した。

### 3 報告事項

- (1) メンタルヘルス・マネジメント検定試験（Ⅱ種）の実施結果  
警務部長から、メンタルヘルス・マネジメント検定試験（Ⅱ種）の実施結果について報告があった。  
委員から、「検定の受験が好意的に受け止められており良いことだと思う。こうした取組によってメンタルヘルス対策の輪が広がっていくことを期待したい」との発言があった。  
委員から、「受験者の合格率が高く優秀だと思う。過去に適切な対応ができなかったために受験したという職員もおり、積極的な姿勢は評価したい。「メンタルヘルスは心が弱いから」という風潮を是正し、正しい知識を身につけて理解を深めていただきたい」との発言があった。  
委員から、「メンタルヘルスに関しては様々な意見があり、精神科医によっても対応が異なる難しい問題であるが、できるだけ早く問題を解決するために、いろいろな機会を利用して職員が正しい知識を身につけていくことが重要だと思う」との発言があった。
- (2) サイバーセキュリティシンポジウム道後2024の開催  
生活安全部長から、サイバーセキュリティシンポジウム道後2024の開催について報告があった。  
委員から、「流動化するサイバーセキュリティに関する最先端のシンポジウムであり、我々企業経営者にとっても有益でありがたい取組だと思う。今後も継続していただきたい」との発言があった。  
委員から、「非常に多くの方が参加されており有意義な取組であったと思う。昔は怖い場所に近づかないことで避けられた被害が、サイバー

犯罪によってピンポイントに個人のスマートフォン等で発生する時代となった。こうしたサイバー攻撃を跳ね返すためには、人と人とのつながりを大切に、皆でいろいろな知識を共有する取組が必要だと思う。」との発言があった。

委員から、「個人に対するサイバー犯罪はもとより、法人に対する攻撃は影響や損失が非常に大きく深刻な問題である。企業のセキュリティを上回る高い攻撃力にいかに対処するか、非常に難しい問題であるが、今後も対処能力の向上に努めていただきたい」との発言があった。

(3) 初任科第186・187期生、一般職員初任科第37期生の入校式の実施

警察学校長から、初任科第186・187期生、一般職員初任科第37期生の入校式の実施について報告があった。

委員から、「採用した優秀な人材が離脱することなく、立派な警察職員に成長することを期待している」との発言があった。

委員から、「未来の県警察を担う頼もしい青年たちである。しっかりと教育していただきたい」との発言があった。

委員から、「入校式に参加するので、清々しい初任科生に会えることを楽しみにしている」との発言があった。

(4) 在留外国人等安全対策への取組状況

警務部から、在留外国人等安全対策への取組状況について報告があった。

(5) 監察案件に関する報告

警務部から、監察案件に関する報告があった。

(6) 人事案件

警務部から、人事案件に関する報告があった。

(7) 令和6年育児休業職員職場復帰研修会の開催

警務部から、令和6年育児休業職員職場復帰研修会の開催について報告があった。

#### 4 その他

本部長から、「委員から、物流業界における時間外労働の規制が及ぼす影響についてお話をいただいた。警察組織も昔と比較して時間外労働等に関する考え方が大きく変わった。特に新型コロナウイルス感染症の拡大をきっかけにテレワークを始めとした働き方改革が進み、ワークライフバランスが浸透したと思っている。県警察でも、最近は無駄を削るという意識や必要性のないものは止めようといった意見具申が増え、職員の意識が大きく転換したと感じているが、他方で、新しく何かを始めたいという前向きな意見具申を聞くことが少なくなったと感じている。何かを削ることを意識するあまり、新たな取組を始めることを意見具申したり、指示したりすることをためらう風潮があるのではないかと危惧している。こうした点にも配意しつつ、バランスを取りながら業務運営に取り組んでまいりたい」との発言があった。

以上